

2026年2月末からオーストリアとドイツに滞在しながら制作と取材を行い、ウィーン9区にあるギャラリー「Atelier multimedia Galerie」にて、2019年の留学時以来2回目となるウィーンでの個展を開催しました。油彩画16点と、ギャラリーの空間に合わせて現地で描いたドローイング4点、計20点を展示しました。

今展示の表題作『スフィンクス』は、クリムトの「キス」などの名画が所蔵されているベルベデーレ宮殿の庭園に並ぶスフィンクス像からインスピレーションを得て描いた作品です。24年前、大学の海外研修で初めてウィーンを訪れた際、雪で真っ白な庭園で来館者を見張るように静かに微笑むスフィンクス像の美しさ、その引力に強く惹かれたことを今でも鮮やかに覚えています。あの時受け取ったインスピレーションを、絵画として、そしてウィーンの地で私らしく表現できたことは、長年の構想が実るべき舞台上で結実した充実感に満ちた瞬間でした。

展覧会はオープニングパーティーから会期最終日まで、予想をはるかに超える多くの方にご来場いただきました。異国の地で言葉や文化の壁がある中、私の絵画を受け入れ心から楽しんでいただけたことは、画家冥利に尽きるかけがえのない経験となりました。

今回の滞在では、音楽の観点から絵画表現を捉え直す機会にも恵まれました。幸運にもこれまで演目をテーマに何枚も絵を描いてきた「オペラ魔笛」を、フォルクスオーパーで観劇することができました。また友人のピアニスト、良子・フォン・ブゼキストさんのご自宅で一对一のピアノ演奏を聴いた際、演奏する彼女の後ろ姿は表現者としての気迫に満ちており、音楽と美術とでは芸術の形は異なるけれど、この時代に絵を描き続けるために必要な勇気と覚悟を再認識できました。

研修の中盤を過ぎた頃から、本格的に油彩での制作を始めました。今回の研修では豊かなインスピレーションが次々と湧き上がり、新鮮なうちに描き留めたいという思いから、留学当時に友人に預けていた画材一式を使って期間中に油絵6点を描き進め、そのうち4点は2026年4月の東京銀座での個展に出品することが叶いました。

40日間の研修はあっという間でしたが、温かい人々に囲まれた素晴らしい滞在となりました。今回得た貴重な経験を今後の制作に活かし、微力ながら大分の文化活動の発展に貢献できるよう尽力してまいります。この度は貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

